

新規事業採択時評価結果（平成18年度新規事業化箇所）

事業の概要

事業名	一般国道362号羽鳥・安西拡幅（2期区間）	事業区分	一般国道	事業主体	静岡市
起終点	自：静岡市葵区羽鳥 至：静岡市葵区山崎	延長	L=0.70km		
事業概要	<p>一般国道362号は、愛知県豊川市を起点とし、静岡市に至る延長約15.7km（うち市内延長2.6km 改良率6.9%）の幹線道路であり、本市周辺においては、川根本町や郊外の中山間部と中心市街地を結ぶ重要な路線となっている。</p> <p>羽鳥・安西拡幅（2期区間）は、現在事業をすすめている第二東名高速道路や国道1号静岡バイパス4車線化整備と一体となって広域ネットワークを形成する羽鳥・安西拡幅の工区を延伸する延長0.7kmの区間である。</p> <p>事業の目的、必要性 当該区間の現道は、安倍川渡河部に位置する交通集中箇所で、山崎2丁目交差点は主要渋滞ポイントに位置付けられており、慢性的な渋滞が発生し、安全で円滑な交通の支障になっている。また、現在事業中である国道1号静岡バイパス4車線化により、更なる交通の増加が見込まれるため、羽鳥ICから安西5丁目交差点間（1期・2期区間）の4車線化により、安全で円滑な交通を確保するものである。</p>				
全体事業費	70億円（2期区間）	計画交通量	36,629台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見

本路線は、中山間地と都市部を結ぶ地域の発展に欠かすことのできない道路であり、「国道362号羽織地区整備促進期成同盟会」に整備促進要望（平成17年8月）を事業主体である市が受けている。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。
手続きの完了：都市計画決定済（平成12年8月）

事業評価結果

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

費用対便益	B/C	3.0	総費用：26億円 （事業費：25億円 維持管理費：1億円）	総便益：77億円 （走行時間短縮便益：52億円 走行費用減少便益：24億円 交通事故減少便益：1億円）	基準年：平成17年
	感度分析の結果		交通量変動 B/C=- (交通量 - %)	B/C=- (交通量 - %)	
			事業費変動 B/C=- (事業費 - %)	B/C=- (事業費 - %)	
			事業期間変動 B/C=- (事業期間 - %)	B/C=- (事業期間 - %)	
自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠		
	渋滞対策		渋滞損失時間の高い区間の渋滞を緩和。 【渋滞損失時間の改善】約56万人時間/年 約23万人時間/年（約6割削減） 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】約12万人時間/年・km（現況） 県平均 約4.3万人時間/年・km（約2.8倍） 全国平均 約2.0万人時間/年・km（約6.0倍） 【渋滞度曲線】静岡県内区間の上位2割に含まれる。 【その他の特徴】渋滞ポイント1箇所 0箇所（1箇所削減）		
	事故対策		死傷事故率の高い区間の事故の減少が見込まれる。 【死傷事故率】190.2件/億台キロ（死傷事故率（県内平均比）1.27） 県平均 150件/億台キロ 全国平均 119件/億台キロ 【死傷事故率曲線】静岡県内区間の上位20%に含まれる。		
	歩行空間		歩道狭小区間の解消。（現況幅員1.0m 3.50m）		
	住民生活		当区間は、山崎・羽鳥地区から中心市街地へ向かう通勤・通学者が多いため、整備により安全で円滑な歩行者・自転車交通が確保される。（自転車交通量2,828台/12h）		
	地域経済	-	-		
社会全体への影響	災害		緊急輸送路強化。（災害時の輸送路確保：2車線 4車線）		
	環境	-	-		
	地域社会		第二東名高速道路や国道1号静岡バイパス4車線化整備と一体となって広域ネットワークを形成。		
	事業実施環境	-	-		

採択の理由

費用便益が3.0であり、都市計画手続きが完了していることから、事業採択の前提条件を確認。当該事業の実施により、現道部の渋滞損失時間削減効果が大きく、広域ネットワークの形成に寄与することから、事業効果が高いと判断できる。以上により、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。